

本特集を読み解く10のキーワード

イノベーション行動 (innovation behavior)

特定の個人が既存の組織ネットワークに不均衡を与え、新たな価値体系を組織に受け入れ可能にする振る舞いのこと。イノベーションの成功確率を高めるものは、既存の枠組みを新たな価値体系に再構築するための組織ネットワーク能力にあると考えられる。それを可能にするのが個人のイノベーション行動である。

イノベーションハブ (innovation hub)

問題の本質を解き組織を超えて適切な人を集め、創造的に問題解決を行う人。組織を超えて人と人を結びつけるネットワークハブの役割を果たすだけでなく、インフォーマルに組織を超えて問題を解決する能力をもつ人を指す。

イノベーションシステム (innovation system)

個人のイノベーション行動を促す環境や、経済・社会のイノベーションを促進させるような諸制度を指す。「ナショナル・イノベーションシステム」といえば、各国のイノベーションを促すシステムを国家単位で分析する際に使われる。

社会起業家／ソーシャルアントレプレナー (social entrepreneur)

社会的な課題を、ビジネスの手法で解決する人のことである。社会的な不均衡や課題を見出す能力と、目的意識や強い「想い」をもち、十分に活用されていない知識やリソースを駆使し、人々をつなぎ、事業として成り立つモデルを作り上げる。イノベーション行動科学では、社会起業家と企業人の行動科学は相互補完的な関係にあると見え、融合を目指している。

企業の社会的責任 (CSR: corporate social responsibility)

企業が社会的に持続可能な存在であるために、株主・投資家に対する責任として利益を追求するだけでなく、多様な利害関係者との関係に責任をもち、消費者に対する品質の確保や、従業員に対する労働条件の適正化、地域社会に対する雇用の維持、社会全体や将来世代に対する地球環境の維持など、適切な行動をすることを意味する。

ビジネスプロデューサー (business producer)

新規事業のプロセスを通して考えると、①新規事業の種となる特殊なアイデアを思いつく ②見通しの立っていない状態から、ビジネスまで作り上げる ③ある程度まとまってきたものをビジネスとして育て上げる、という三つのプロセスはそれぞれ別の人間が担うことが多いが、②の役割を担う人間をビジネスプロデューサーと呼ぶ。

事務局力 (the art of proactive administrative assistance)

日々の文書作成や調整作業に埋没し、目標を見失った事務局を「管理的事務局」、一方で固有の目標を持ち、組織を活性化させる事務局を「戦略的事務局」と呼ぶ。「事務局力」といった場合、後者のような事務局が発揮するような役割のことを指す。実際のイノベーションのプロセスでは、組織運営のうえで重要な鍵を握る事務局が大きな役割を発揮することが多く、事務局の働き次第で大きく方向性が決まってくる。

プラカデミアサロン for Social Innovation (Pracademia Salon for Social Innovation)

国際大学GLOCOMにて開催している、学際的にイノベーション行動科学を研究するサロン。プラカデミアとは、実務家 (practitioner) と大学関係者 (academia) とを合わせた造語。「実務家の実績」と「研究者の研究成果」を活かした新たな実践の創造を目指し、イノベーションを起こす行動を解明することで、個人のイノベーション行動、ひいては社会変革を促進することを目的としている。

ファシリテーション (facilitation)

会議等の場で、さまざまな立場の参加者同士の対話が円滑に行われるように、中立的な支援を行う技術のこと。具体的には、会議の議事進行を行う人間の技術のことを指す場合が多い。同じ参加者でも、議事進行の仕方によって、会議がまとまらなかったり、逆に活性化したりすることもあるため、さまざまな立場の参加者がいる会議では重要なスキルとなる。

グラフィックファシリテーション (graphic facilitation)

グラフィックを用いたファシリテーションのこと。具体的には、会議をしながらリアルタイムに議事録をグラフィックとして描いていく。グラフィックを介して、言葉とは別の感覚で議論をとらえ直すきっかけを与える。

